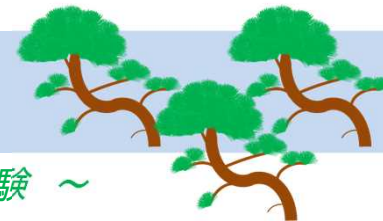


## 虹の松原で「除伐体験」を開催



～ 唐津南高校生と宮城県の高中生・大学生が交流し 除伐作業を体験 ～

12月10日、虹の松原国有林(唐津市)において、クロマツが過密林となっている箇所を対象に除伐体験を開催しました。このイベント開催にあたっては、NPO法人唐津環境防災推進機構KANNEの協力の下参加の呼びかけをお願いしたところ、唐津南高校から9名、また、本年は宮城県から名取市の海岸で「震災で失った松林の再生活動」を行っている、公益財団法人オイスカが任命した海岸林リーダーの高校生、大学生の4名が参加し、各引率者、スタッフ合わせて総勢27名が心地よい汗を流しました。

はじめに、白石署長から「虹の松原は、特別名勝天然記念物として白砂青松が全国的にも有名ですが、海岸防災林として玄界灘から吹く潮風を防ぎ、市民生活を守る、保安林として大きな役割を果たしています。本日の除伐作業は、クロマツ林を健全な森に育てていくために重要な作業です。このような作業を続けていくことが、永続的に虹の松原がその役割を果たしていくことに繋がります。」と挨拶を述べました。

つづいて、当署職員より、除伐作業の目的について説明を行った後、作業のデモンストレーションを実施しました。その後、唐津南高校生と宮城県の高中生と大学生と一緒に3班に分かれ、手鋸を使って協力しながら除伐作業を行いました。

はじめは、将来大きく育てる木の選木とその周辺の伐採木を決めることが難しい様子でしたが、当署職員からアドバイスを受けながら2時間除伐作業を体験しました。立木伐採を初めて行った参加者からは、伐倒後の達成感から安堵の声が上がりました。

今回の除伐体験が、宮城県と佐賀県の生徒達の交流のきっかけとなって、今後の活動に生かされることを期待するとともに、当署としても引き続き保全管理に取り組んでいきます。



宮城県からの参加者と交流も深め集合写真



除伐体験の様子



当署職員によるデモンストレーション